



AI(人工知能)やロボットの進化によって2045~2060年頃には、全人口の一割ぐらしか労働をしない「脱労働社会」がやってくると予想しているのは駒澤大学准教授、井上智洋さん。そこで心配されるのが適切な社会保障制度が整っていないければ、多くの人は収入を失い、飢え死にをしないということから「ベーシックインカム」(すべての人に最低限の生活費を無条件に支給する)が不可欠だと主張する。また「働いて役に立つことが人間の唯一の価値だと思い込んでいる人」にとっては価値観の転換がいや応なしに突き詰められてくるという。

脱労働化が進み、生きるために働く必要がなくなれば、「自分とは何か」、「生きるとは、死ぬとは」と、根源的な思索に向かう人が増えていくことになるのであろう。私たちはみな間違いなく幸せを求めてひたすら生きてきたはずだが、今の自分が心から喜べる身になっているのかどうか大いに疑問に思うところである。

若くして命を絶った有名な俳優さんがいたが、他人から見れば、とても充実した人生のように思っていたものだが、当人の心には周りからは見えない深い闇が潜んでいたのだろうか。生きることの困難さの姿かたちは変われども、心の問題は今も昔も質的には何も変わらないということなのだろう。今こそ仏法に心傾け、阿弥陀様の明るい光に照らされて、迷いの人生から共に目覚めていける人生にしていこうではないか。

おばあちゃんには仏さま

ある高齢のおばあさんが亡くなった。今日はそのおばあさんの忌明けの法要である。おばあさんはある病の治療中ではあったが、ほんとうと突然と言いつつ、よくいらしたの最期であった。お年は九十二歳といついでに高齢であった。

「このおばあさんは、いつも明るく振舞い、とても親しみやすい方であった。息子さん曰く、普段は「弱音を吐いたことがなく、とても我慢強い母親だった」と。しかし、亡くなる少し前から医者へ行くのがつらいと漏らし始められたという。そして亡くなる当日も治療の辛さを我慢して受けられていたのかどうか、突然気分が悪くなり、救急車で市民病院に運ばれることになったという。それから間もなくの事、静かに息を引き取られたということだった。

浄土へ還っていかれたおばあさんの心は、この度の葬儀、中陰、忌明け法要を通して、孫やひ孫にまで確かに引き継がれていったように思え、尊いご縁に出会わせていただけたことだと思っている。

中陰中は欠かさず孫やひ孫たちも一緒に出勤をしてくれた。まだ訳も分からない生まれで数か月の赤ちゃんまでも仏壇の最前列に陣取りお参りをしてくれた。

おばあさん曰く、一年生になった女の子はお参りのない日でも、お参りがしたいと言ってやってくるのだと、目を細めて語ってくれた。

お念仏から和讃までしっかりと読めるようになり、とても頼もしく、大きな声で唱和する。「なまくだぶ、なまくだぶ」が心にしみる忌明けの法要となった。



みんなきちんと正坐までして、大きな声で正信偈を読んだ5人のひ孫たち。何物にもかえがたい貴重なひと時であった。



九月二十二日(秋分の日)。お天気にも恵まれて多くの参詣者がありました。日頃はなかなかお目にかかれない数名の方も自ら足を運んでくださったようで、ありがたいお勤めとなりました。

読経の後には、久しぶりに住職が法話をさせていただきました。約四〇分ほどでしたが、人生一〇〇年時代と言われる中で、生きる目的を見失い、ただ人生を空しく過ごしている人が意外に多いのではないかと、そんな疑問がある統計調査結果から思い浮かんだことから、『浄土論偈文』の「観仏本願力 遇無空過者 能令速満足 功德大宝海」の「空過」という言葉のこころをたずねての話を中心にさせていただきました。



天親菩薩は生きる意味も死ぬ意味も知らずにただ人生を空しく生きることを「空過」であると教えられました。親鸞聖人はこの言葉を通して「本願力にあひぬれば むなくすべし」といふほどなき 功德の宝海みちみちて 煩惱の濁水へだてなし」と和讃されたのです。

今月の掲示板

浄土真宗に

帰すれども

真実の真は

ありがたし

虚仮不実の

わが身にて

清浄の心も

さらになし

「この和讃は、親鸞聖人自らが虚仮でしかありえないことを吐露されている「愚禿悲嘆述懐」です。

「浄土真宗に帰すれども」という告白は、自らの不確実さを赤裸々に告白されたお言葉ではありますが、逆説的にとらえてみますと、「浄土真宗に帰した」からこそ、知らしめられてきた虚仮のわが身ではなかったのではないのでしょうか。

つまり本願によって顕かになったわが身こそが救われる対象であることを表明されたのです。

新「一ナー

十二回連載

樹林

自然は無言で、ありのままの姿を見せてくれますが、その姿を通して気づかされてくることも多いのではないかと思われます。

「土の中の微生物たち」

私たちは地上で生活していますが、地下にも膨大な生物の世界があることをご承知でしょうか？

土の中にはミミズとかダン、線虫など小動物の他に、目に見えない微生物が繁殖しています。その生体重量は、1アール(30坪)あたり70kgに達するといわれます。こうした小動物や微生物が有機物を分解して、植物の生長を助けているのです。

土の中で活動する微生物は、細菌・放線菌・糸状菌・藻類など多種類に及びます。1g中に1千万匹以上の微生物が生息するといわれており、土の中には想像を超えた世界が広がっているのです。その働きは有機物を分解すること、地球上の物質循環の一翼を担っているのです。

こうしてみると自然界の不思議、自然への畏敬を感じざるを得ません。



大豆の根粒菌

大豆の根は根粒菌と共生しており、空気中の窒素を取り込んで大豆に供給しています。



土壤微生物

自然散歩

5回目



新聞原稿募集中！

毎週金曜日は茶話会開催中。

写経に取り組んでみませんか？ 住職迄ご連絡を。